

令和 2 年 7 月 11 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02436

研究課題名（和文）後期読本の長編構成に関する複眼的検討

研究課題名（英文）A Wide-Ranging Study on the Longform Yomihon of the Late Edo Period

研究代表者

大高 洋司 (Yoji, Otaka)

国文学研究資料館・その他部局等・名誉教授

研究者番号：60152162

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：江戸時代に出版された小説類のうち、「読本（よみほん）」は前期・後期に分かれ、現在でも多くの原本に接することが可能な分野である。中でも、山東京伝・曲亭馬琴を中心作者とする後期読本は、近代の長編小説に最も近い形態をもつ。本研究では、それらがどのような構造になっているのか、代表的でない作品も含めて、タイプの異なる後期読本の構成を分析し、また前期読本の長編作との比較も行った。最も大きな成果は、作者が物語の中にモラルを形象化し全体の流れの中で解決する様々な方法についての、時代的・地域的・個人的な違いに細心の注意を払うことが、単一になりがちな後期読本の理解から私たちに自由にする、ということである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「読本」は、初印テキストを選別・認定する困難さもあって全貌の理解は遅れていたが、専門研究者による書誌調査が進み、諸機関によるデジタル画像の公開に伴って、良質なテキストに基づく研究が進展しつつある。しかし、現在の読本研究は、中心作者であるが強い自己主張を他者に及ぼす、馬琴の視点による評価をなお免れていない。私たちは、馬琴偏重の相対化を目指して、タイプの異なる作者の読本を選別し、長編構成の分析につとめた。については、読本を多く含む「京都大学文学研究科図書館／濱田啓介文庫目録」を専門研究誌に掲載し、については、9本の論文(校正中・投稿中を含む)を通じて、研究成果を社会還元するものである。

研究成果の概要（英文）：Of all the novelistic publications from the Edo period, it is the yomihon, which can be divided into later and formative periods, that provides us with the greatest number of surviving manuscripts. Of these, the later period works represented by Santo Kyoden and Kyokutei Bakin, bear a strong resemblance in structure to the modern novel. This research, then, investigates the construction of these works by analyzing the various types of later period yomihon, including lesser-known works, while also providing a comparison to the longform yomihon of the formative period.

The most important finding of this research is the rejection of the paradigm which has seen us understand late-period yomihon as unified in their representation of different moralities. Instead, the authors has thoroughly examined how morality is characterized and ultimately judged in each of these works, with close attention paid to the temporal, geographical, and personal differences exhibited by the examined authors.

研究分野：日本近世文学（読本）

キーワード：江戸時代 近世小説 後期読本 長編構成

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

基盤研究（C）「後期読本の長編構成に関する複眼的検討」（代表者：大高洋司）

### 1. 研究開始当初の背景

「後期読本（よみほん）」は、江戸時代後期（19世紀前半）に多く制作・刊行された娯楽読みものであり、本ジャンルの研究に大きな功績を残した中村幸彦氏から「日本で初めて出現した長編小説」との評価を受けている。中村氏は、「後期読本」を特徴づける諸点として、早く「一、長編小説であること。二、勧善懲悪の思想的裏付けを持つこと。三、和漢混合の一種の文体を供えること。四、装訂・繡像・挿画などに留意すること」（1958）を数え、これらに「趣向を共有すること」（浜田啓介氏 2005）を加えた5点を、現在「後期読本」様式の主要要素と見なし得る。

本研究の代表者は、このジャンルのもつ上記諸特徴のうち、主として読本の長編構成を支える独自の仕組み（〈読本的枠組〉\*）の解明に力を注いできた。これまで、山東京伝・曲亭馬琴の作を中心に、〈読本的枠組〉を用いて虚構性の強い内容を破綻なく長編化する〈稗史（はいし）もの〉の形成過程について考察を重ね、山東京伝の作を中心に文化三、四年（1806-07）頃いちおうの完成を見た結論づけている（大高洋司『京伝と馬琴 〈稗史もの〉読本様式の形成』2010）。

\* 〈読本的枠組〉：大高の造語。後期読本の中でも、京伝・馬琴によって様式の確立した〈稗史もの〉に見られ、読本独自の長編構成を可能にするための仕組み。人間・動物・モノ・言葉など様々なかたちで、ふつう物語の発端近くで存在が示され、その後、表面に姿を見せなくても、ストーリー展開に直接・間接に関与し続け、〈稗史もの〉読本の結末は、例えば怨霊の解脱、過去の因縁の消滅、言葉の謎の解決といったように、作品世界の中から〈読本的枠組〉の存在が消えることによってもたらされる。読本における小説的展開の原動力と言って良く、また作品全体が〈読本的枠組〉に貫かれ、挟まれることで、その内側に置かれる個々の挿話や典拠は、互いに突出せず安定した状態となる。日本近世小説の様式としてこのジャンルを把握するための重要要素。

一方、京伝・馬琴の〈稗史もの〉読本が様式を整えたのと同じ時期に、両者とは異なるかたちで、時代に合った新しい長編娯楽読みものを提供しようという試みが様々になされてもいた。それらに対しては、従来、作者・作品の検討が個別に行われたものもあり、また近年、特に上方の〈絵本もの〉（絵本読本）について、史的意義の再評価もなされるようになってきた。しかし現在なお、読本の研究は馬琴を中心とする典拠研究に偏しており、馬琴を含めて、読本作者たちが典拠をどのように踏まえ、長編として破綻のないように組み立てているのかという問題意識は、必ずしも共有されないままである。今回、周辺の作者・作品を掘り上げ、それらを京伝・馬琴の〈稗史もの〉と丁寧に比較する作業（「複眼的検討」）を通じて、「日本で初めて出現した長編小説」の達成レベルを改めて検討・確認し、研究の空白を補填したいと考えている。

### 2. 研究の目的

江戸時代後期を代表する娯楽読みものである「後期読本（よみほん）」の様式が確立する寛政末・享和・文化初年（1799～1809頃）にかけて、「後期読本」の小説様式のうち長編化を可能にする作品構成（〈読本的枠組〉その他）がどのようにして形成されたか、独自の指標を設け、またそれが個々の作者に止まらず、どのようにしてジャンル全体を特徴づけるに至ったか、従来の評価軸を見直し当該分野の研究の将来を見据えた見取り図を提示する。

### 3. 研究の方法

「読本」の伝本調査（\*）に基づく善本テキストをメンバーで共有の上、研究会を催し、それ

ぞれ興味の方向を異にする研究協力者 7 名との議論を通じて、取り分けこれまでさほど解明の進んでいなかった〈稗史もの〉読本の諸作について、「長編」小説としての達成と限界を順次検討の上、成果を個別の論文にまとめて今後の研究に資する。

\*従来の調査結果(国文学研究資料館をはじめとする所蔵機関データベースの画像、公開された書誌データなど)に加え、本課題のメンバー(代表者・研究協力者)により、後期読本を多く含む「京都大学文学研究科図書館／濱田啓介文庫」の調査を実施して、書誌的理解を深める。

#### 4. 研究成果

研究期間中の活動のみでは、「2. 研究の目的」を十二分に達成するまでには至らなかったが、「後期読本」の中心的、また周縁的な作者・作品について、長編構成の様々な特徴を抽出し、また「前期読本」の長編作との比較検討も行って、将来につながる様々なヒントを得ることができた。研究会における口頭発表(代表者・連携研究者)に加え、同様の問題意識をもって研究活動を行っておられる田中則雄氏(島根大学法文学部教授)に講演を依頼して、検討の対象を拡大し、議論を深化させた。これらの内実について、4 - i 口頭発表(講演を含む)、4 - ii 雑誌論文の順に成果を列挙する。また4 - iii 調査目録は、「3. 研究の方法」で述べた調査の成果を目録化したもので、所収の書誌データは、京都大学文学研究科図書館・京都大学文学部国語学国文学研究室・国文学研究資料館古典籍共同研究事業センターに提供して、閲覧およびデータベース構築作業に資する予定である。

##### 4 - i 口頭発表(講演を含む)

○平成 28 年 7 月 2 日(明治大学駿河台キャンパス 出席者 7 名)

紅林健志「『大友真鳥実記』と『本朝水滸伝』—長編読本登場の一前提—」

○平成 28 年 10 月 22 日(明治大学駿河台キャンパス 出席者 6 名)

伊與田麻里江「山東京伝と岸本由豆流の交流—『双蝶記』の一文をめぐって—」

○平成 28 年 11 月 26 日(明治大学駿河台キャンパス 出席者 7 名)

村上義明「高井蘭山の著述活動と『絵本三国妖婦伝』」

○平成 29 年 8 月 21 日(国文学研究資料館グループ閲覧室 出席者 8 名)

牧野悟資「狂歌判者赤城山人の読本『僊窟史』考—実録と『源氏物語』への挑戦と挫折—」

○平成 29 年 8 月 22 日(国文学研究資料館グループ閲覧室 出席者 8 名)

大関 綾「『自来也説話』の長編構成」

○平成 29 年 12 月 2 日(明治大学駿河台キャンパス 出席者 6 名)

大高洋司「『拙作』としての『頼豪阿闍梨怪鼠伝』」

○平成 30 年 8 月 6 日(国文学研究資料館第 2 会議室 出席者 11 名)

森 藍子「『奴の小万』考—唐衣の造型と話の枠組みをめぐって—」

○平成 30 年 8 月 7 日(国文学研究資料館第 2 会議室 出席者 9 名)

野澤真樹「鉄格子波丸『葦牙草紙』の構造」

○平成 30 年 11 月 17 日(明治大学駿河台キャンパス 出席者 8 名)

大高洋司「『双蝶記』の長編構成と〈勸善懲悪〉」

○令和元年 8 月 19 日(京都大学附属図書館 3F 共同研究室 5 出席者 13 名)

共同討議：後期読本の長編構成と〈勸善懲悪〉—田中則雄氏『読本論考』を踏まえて—

○令和元年 8 月 20 日(都大学附属図書館 3F 共同研究室 5 出席者 9 名)

講演：田中則雄「小枝繁と浄瑠璃—長編構成の観点から—」

○令和元年 8 月 24 日（演劇研究会 同志社大学今出川キャンパス徳照館一階会議室 出席者 13 名）

大高洋司「〈読本的枠組〉と〈演劇的枠組〉—山東京伝『双蝶記』に即して—」

4 - ii 雑誌論文

- ① 紅林健志「仮作軍記と『本朝水滸伝』」、「国語と国文学」94 - 11、2017 年 11 月、60 - 73 頁
- ② 伊與田麻里江「山東京伝『双蝶記』の創作法—時行主従の造型をめぐって—」、「読本研究新集」第 10 集、2018 年 6 月、33 - 51 頁
- ③ 大関綾「『自来也説話』における「自来也」像」、「読本研究新集」第 10 集、2018 年 6 月、85 - 102 頁
- ④ 大高洋司「「拙作」としての『頼豪阿闍梨怪鼠伝』」、「国語国文」87 - 2018、2018 年 10 月、1 - 19 頁
- ⑤ 野澤真樹「鉄格子波丸『葦牙草紙』の構想—「浪花貨殖伝」という別題に関して—」、「上方文藝研究」第 16 号、2019 年 6 月、64 - 76 頁
- ⑥ 大高洋司「『双蝶記』の長編構成—〈読本的枠組〉の定位—」、「国語国文」88 - 7、2019 年 7 月、1 - 35 頁
- ⑦ 野澤真樹「鉄格子波丸『葦牙草紙』における長編化の方法—『月氷奇縁』の撰取と靈狐の造形を中心に—」、「読本研究新集」第 11 集、2020 年 2 月、61-77 頁
- ⑧ 大高洋司「『椿説弓張月』の位置—〈一代記〉と〈史伝もの〉—」、「国語と国文学」97 - 8、2020 年 7 月、3 - 17 頁
- ⑨ 森 藍子「『奴の小まん』考—唐衣の造型と話の枠組みをめぐって—」、「新潟大学人文学部国語国文学会誌」第 57 号（投稿中、刊行時未定）

4 - iii 調査目録

共編（8 名 代表者：大高洋司）「〈京都大学文学研究科図書館〉濱田啓介文庫目録」、「読本研究新集」第 11 集、2020 年 2 月、137 - 174 頁

以上

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 紅林健志	4. 巻 94-11
2. 論文標題 仮作軍記と『本朝水滸伝』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 60-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11501/8099179	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊與田麻里江	4. 巻 10
2. 論文標題 山東京伝『双蝶記』の創作法 - 時行主従の造型をめぐって -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 33 - 51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大関綾	4. 巻 10
2. 論文標題 『自来也説話』における「自来也」像	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 85 - 102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大高洋司	4. 巻 87 - 10
2. 論文標題 「拙作」としての『頼豪阿闍梨怪鼠伝』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 1 - 19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11501/6059320	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野澤真樹	4. 巻 16
2. 論文標題 鉄格子波丸『葦牙草紙』の構想 「浪花貨殖伝」という別題に関して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 上方文藝研究	6. 最初と最後の頁 64-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大高洋司	4. 巻 88 7
2. 論文標題 『双蝶記』の長編構成 読本的枠組 の定位	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語国文	6. 最初と最後の頁 1 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11501/6059320	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野澤真樹	4. 巻 11
2. 論文標題 鉄格子波丸『葦牙草紙』における長編化の方法 『月水奇縁』の撰取と霊狐の造形を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 61-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大高洋司他 (共編)	4. 巻 11
2. 論文標題 京都大学文学研究科図書館 / 濱田啓介文庫目録	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 137 174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大高洋司	4. 巻 97-8
2. 論文標題 『椿説弓張月』の位置 一代記 と 史伝もの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11501/8099179	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

#### 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	牧野 悟資  (makino satoshi)		
研究協力者	紅林 健志  (kurebayashi takeshi)		
研究協力者	村上 義明  (murakami yoshiaki)		
研究協力者	森 藍子  (mori aiko)		
研究協力者	伊與田 麻里江  (iyoda marie)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	野澤 真樹  (nozawa maki)		
研究協力者	大関 綾  (ozeki aya)		